

研究指定校名 : 米子市日吉津村中学校組合立箕蚊屋中学校

## 1. 学校の概要

学校名	米子市日吉津村中学校組合立箕蚊屋中学校
学級数	18学級（うち特別支援学級：2学級）
児童生徒数	全生徒数：504人（平成29年1月7日現在）
URL	<a href="http://www.torikyo.ed.jp/minoka-j/">http://www.torikyo.ed.jp/minoka-j/</a>

## 2. 調査研究のテーマ

### (1) 調査研究のテーマ

#### 【中学校区共通テーマ】

箕蚊屋教育コミュニティにおける人権尊重社会の基礎づくり

～互いに関わり合い学び合う子どもの育成を通して～

#### 【本校研究主題】

自他を大切にし、互いに関わり合い、学び合う生徒の育成

### (2) 調査研究のテーマを設定した背景

本校では平成26年度の研究主題を「『人権教育の改善と充実』～学習事例の開発と支え合う仲間づくりの推進～」とし、取組を進めてきた。その結果、教師同士で人権学習に関して自主的に話し合う場が増えるなど、授業の準備段階や日常生活での情報交換に変化が見られるようになってきた。

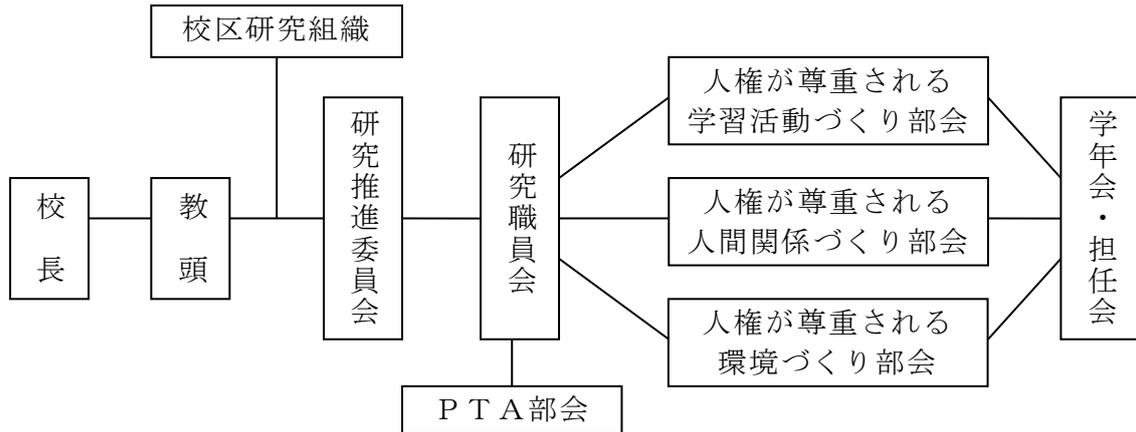
本校を含む箕蚊屋中学校区は、平成28年度の米子市中学校区人権教育研究発表会の開催に向けて、中学校区の研究組織を立ち上げて研究を推進してきた。この研究を始めるにあたり、校区児童生徒を対象に実施した「自己他者肯定感テスト」「自尊感情5領域テスト（総合的領域、社会的領域、身体的領域、学力的領域、家庭的領域）」「人権意識アンケート」の傾向として、学力的領域と身体的領域が他の領域に比べ低かった。

また、本校生徒を含む多くの児童生徒が学習に自信がなく、その結果として自尊感情を低下させていることが明らかとなった。また、自尊感情の低さが、主体性の欠如や苦手なことからの逃避といった消極的な姿勢や、友だちに対する攻撃的な言動を行うなど良好な人間関係を阻害する態度につながることもわかった。

そこで、中学校区共通研究テーマ「箕蚊屋教育コミュニティにおける人権尊重社会の基礎づくり～互いに関わり合い学び合う子どもの育成を通して～」の下、「自己についての肯定的態度（自尊感情）」を高めるために、「人権が尊重される学習活動づくり部会」「人権が尊重される人間関係づくり部会」「人権が尊重される環境づくり部会」の3つの専門部会を立ち上げ、人権が尊重される学校づくりに取り組むこととした。

具体的には、校区の小学校と連携し、中学校卒業までの15年間を見通した「学力の向上」「人権意識の向上」「集団づくり」「基本的生活習慣の定着」等について、小学校低学年・中学年・高学年、中学校ごとに、育てたい資質・能力を明確にした「中学校区15年プラン『育てたい資質・能力』」を作成して研究を進めることで、本校の研究主題「自他を大切にし、互いに関わり合い、学び合う生徒の育成」に近づくものと考え研究に取り組むこととした。

### 3. 調査研究の推進体制



#### 【関係協力機関】

- 鳥取県教育委員会      ○米子市教育委員会      ○日吉津村教育委員会
- 米子市日吉津村中学校組合教育委員会
- 米子市人権・同和教育推進協議会学校教育部会
- 箕蚊屋中学校区人権・同和教育推進協議会

### 4. 調査研究の内容等

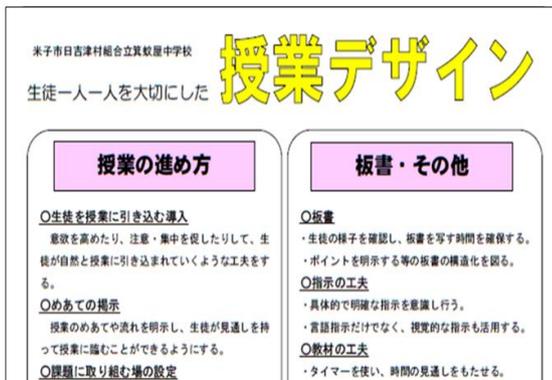
#### (1) 調査研究の内容・実施日程

<人権が尊重される学習活動づくり部会>

##### ①授業改革

・授業デザインの活用

・「人権が尊重される授業づくりチェック表」の作成・活用



箕蚊屋中学校区人権が尊重される授業チェックリスト

自己存在感	① 授業に参加している実感	学習内容や活動に応じた座席の工夫や発問・応答のパターンの工夫ができていたか。
	② 必要とされている実感	お互いの発言を最後まで聞く習慣や聞き手を大切にする習慣が身についているか。
	③ 教師の姿勢	承認・賞賛・ほげましの言葉をかけ、個に応じた改善課題や改善方法を示しているか。
共感的人間関係	④ 受け入れられている雰囲気	一人一人が自由に発言できる雰囲気作りができていたか。
	⑤ 学び合う仲間の実感	ペア学習グループ学習で他者の発言や作品のよさに気づき、学ぼうとしているか。
	(6) 空習課題や計画	各課授業に於いて 学習の目標、やめあてを明瞭に学習を進められているか。

- ・多様な学びを取り入れた授業づくり（授業形態の工夫、アクティブラーニングなど）
- ・学力実態の分析（全国学力・学習状況調査）
- ・授業振り返りアンケート（年2回：7月・12月）
- ・校内授業研究の充実

##### ②基礎的学習内容の定着

- ・「学習の日」の充実  
（課題プリント作成、家庭学習のリーフレット作成・活用）
- ・補習やTTによる個別指導

<人権が尊重される人間関係づくり部会>

##### ①学級の人間関係づくり

- ・話し合い活動の充実
- ・クラススタンダード、マイスタンダードへの取組
- ・班活動や朝の会・終わりの会の充実
- ・「ライフ（生活ノート）」「学級通信」の活用



日々にかす  
(クラススタンダード)

- ②学校の人間関係づくり
  - ・生徒会活動や部活動の充実
  - ・掲示による他学年へのメッセージ

- ③学校間・地域間交流
  - ・あいさつ運動
  - ・新入生交流会
  - ・幼児ふれあい体験
  - ・職場体験
  - ・校区リーダー研修会

- ④人権学習の充実
  - ・教科領域に基づいた学習内容の見直し
  - ・道徳の時間における授業改善（発問、展開の工夫）
  - ・総合的な学習の時間の見直し ・人権弁論

＜人権が尊重される環境づくり部会＞

- ①学校における基本的生活習慣の確立

- ・「箕中スタンダード」の取組
- ・生徒会を中心とした自治活動
- ・生徒に寄り添った生徒指導

- ②安心して過ごせる校内環境づくり

- ・ユニバーサルデザインの視点
- ・共通掲示（授業に向けて、クラススタンダード、マイスタンダードなど）
- ・人権コーナー（校内）、仲間コーナー（教室）の設置
- ・人権標語への取組

- ③家庭における基本的生活習慣の確立

- ・ノーメディアデーの取組



ポスターセッションの様子  
（総合的な学習の時間の見直し）



学習の成果を各教室前に掲示  
（人権コーナー）

期 日	内 容	備 考
4月 5日（火）	第1回 研究職員会	全職員
11日（月）	第1回 研究推進委員会	11人
13日（水）	第2回 研究職員会	全職員
	第1回 担任会	20人
15日（金）	校区拡大研究部会（箕蚊屋小学校）	4人
19日（火）	*全国学力・学習状況調査	
21日（木）	米子市人権教育研究推進事業連絡協議会（県教育委員会3人）	参加者8人
26日（火）	校区研究主任会	1人
5月 2日（月）	校区研実行委員会（箕蚊屋小学校）	5人
12日（木）	箕蚊屋中学校区人権・同和教育推進協議会総会（全員研修）	全職員
13日（金）	P T A 部会 人権情報紙発行	1500部
16日（月）	第2回 研究推進委員会	11人
18日（水）	第3回 研究職員会	全職員
25日（水）	第1回 小中一貫協議会	
6月 13日（月）	第3回 研究推進委員会	11人
15日（水）	授業研究会（2年国語） 指導助言 牧田礼次郎 係長（県教育委員会） 西垣栄太郎 指導主事（県教育委員会）	
	第4回 研究職員会	全職員
16日（木）	学年研究授業（1年団）	9人

17日(金)	学年研究授業(1年団)	9人
20日(月)	学年研究授業(1年団)	9人
22日(水)	第2回 担任会	20人
27日(月)	第5回 研究職員会 授業研究会(1年道徳) 指導助言 森田泰弘 係長(県教育委員会)	全職員
29日(水)	第2回 小中一貫協議会	2人
30日(木)	研究会参加(鳥取大学附属中学校) PTA部会 人権情報紙発行	1500部
7月 6日(水)	第3回 担任会	20人
8日(金)	先進地視察研修 福岡県田川市立金川小学校	1人
11日(月)	第4回 研究推進委員会	11人
13日(水)	第6回 研究職員会	全職員
22日(金)	総合的な学習の時間についての研修 指導助言 奥田和弘 指導主事(県教育委員会)	10人
29日(金)	第3回 小中一貫協議会	
8月 3日(水)	校区全体研修会(箕蚊屋小学校) 指導助言 三木徹 課長補佐(米子市教育委員会)	全職員
9月 10日(土)	職員研修 講師 千代西尾祐司 教授(島根大学)	12人
20日(火)	PTA部会 人権情報紙発行	1500部
21日(水)	校区拡大研究部会(箕蚊屋小学校)	4人
10月 3日(月)	第5回 研究推進委員会	11人
5日(水)	第7回 研究職員会	全職員
12日(水)	第4回 担任会	20人
19日(水)	第4回 小中一貫協議会	
11月 7日(月)	第6回 研究推進委員会	11人
9日(水)	第8回 研究職員会	全職員
14日(月)	ハンセン病問題講演会 講師 田村朋久 学芸員(長島愛生園)	第2学年
16日(水)	第9回 研究職員会	全職員
22日(火)	箕蚊屋中学校区人権教育研究発表会(全学級公開) 指導助言 森田泰弘 係長(県教育委員会) 竹本周平 指導主事(米子市教育委員会) 成果刊行物配布	参加者458人 150冊
1月 17日(火)	第10回 研究職員会 米子市人権・同和教育研究集会(第2、3分科会発表) 指導助言 森田泰弘 係長(県教育委員会) 竹本周平 指導主事(米子市教育委員会)	全職員 6人
2月 15日(水)	第7回 研究推進委員会	11人
3月 1日(水)	人権教育研究推進事業連絡協議会(県教育委員会10人)	参加者28人

## (2) 調査研究の成果と課題

### 【成果】

同じ生徒集団の比較とはならないが、全国学力・学習状況調査の結果を利用し、学習に関する本校の第3学年を年度比較してみたのが<表1>である。

表中の本校比較（右端の部分）からもわかるように、学習時間や予習・復習の実施に関しては顕著な変化が見られた。生徒の学習習慣や学習への主体的な取組を窺うことができ、学習への積極性が自尊感情の高まりにつながることで期待できる結果となった。

あわせて<表2>からは、授業の中で目標が示され、振り返りが行われていると感じる生徒が増加している。このことは、今回の取組を通して、教職員の授業に対する意識変革がなされてスキルアップにつながっていることを示しており、1つの成果といえる。

次に、生徒の自尊感情に関する項目の変化を集めたのが<表3>である。この結果からもわかるように、自分に対して自信を持つ生徒が育ちつつあり、自尊感情の高まりが見られる。

また、<表4>では、自分を取り巻く社会に目を向ける生徒が増えており、自尊感情の高まりから、自分の周りを見る余裕が生まれつつあることが窺え、地域社会の担い手としての成長も期待できる結果となった。

このように、「第三次とりまとめ」を柱とし、小中学校が共通の課題や目標に向かって研究を進めることで本校としてもいくつかの成果は上がっている。

### 【課題】

課題としては、<表5>からもわかるように、話し合い活動に関する生徒のスキルを高めていくこと、それを実現するための教員研修が必要であることが挙げられる。

<表1>

項目	回答区分	全国との差		本校比較
		H27	H28	
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか	1時間以上	▲17.2	▲9.4	6.7
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか	2時間以上	▲12.7	3.3	14.4
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	肯定的評価	2.4	10.7	7.9
家で、学校の授業の予習をしていますか	肯定的評価	▲16.1	1.8	16.8
家で、学校の授業の復習をしていますか	肯定的評価	▲12.5	3.8	15.3
1,2年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか	肯定的評価	▲0.4	6.4	6.4
1,2年生のときに受けた授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか	肯定的評価	3.5	5.7	5.8
学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか	肯定的評価(思わない)	4.0	7.5	5.0

<表2>

項目	回答区分	全国との差		本校比較
		H27	H28	
1,2年生のときに受けた授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか	肯定的評価	▲9.4	3.5	18.1
1,2年生のときに受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか	肯定的評価	▲0.7	8.8	13.3
1,2年生のときに受けた授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていたと思いますか	肯定的評価	▲14.4	5.5	23.0

<表3>

項目	回答区分	全国との差		本校比較
		H27	H28	
難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか	肯定的回答	▲0.2	▲0.6	4.8
自分には、よいところがあると思いますか	肯定的回答	▲10.1	2.7	13.9
友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか	肯定的回答	▲3.9	1.0	5.5
将来の夢や目標を持っていますか	肯定的回答	▲3.2	3.9	6.5

<表4>

項目	回答区分	全国との差		本校比較
		H27	H28	
今住んでいる地域の行事に参加していますか	肯定的評価	▲0.3	7.9	8.6
地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか	肯定的評価	▲11.5	▲9.1	12.3
テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか	肯定的評価	▲4.9	▲3.9	4.5

<表5>

項目	回答区分	全国との差		本校比較
		H27	H28	
友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか	肯定的回答	1.4	▲1.6	▲3.0
あなたの学級では、学級会などの時間に友達同士で話し合っで学級のきまりなどを決めていくと思いますか	肯定的評価	▲4.8	▲16.2	▲11.3
生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	肯定的評価	6.8	▲3.2	▲8.1

また、平成28年7月には、平成27年度と同様の「自己他者肯定感テスト」「自尊感情5領域テスト」を再度行った。

＜表6＞は、「自尊感情5領域テスト」について、平成28年調査時のそれぞれの学年が、前回の調査からどのように変化したのかを割合で示したものである。

個々によって回答基準が異なるため、右の表のように個人が最小得点をつけた項目（個人内評価）と下の表のように18点中6点以下の得点をつけた項目（絶対評価）の2つの視点から集計を行った。

結果として、個人内最小点（上の表）の社会的領域（他の友だちからどう見られているか）では、その割合が減少し、自尊感情の高まった生徒の増加が見られたが、学力的領域については、2つの表ともに割合が増加し、自尊感情の低下した生徒の増加が見られた。その他の領域についてはほとんど変化がなかったと判断できる。

次に、「自己他者肯定感テスト」の結果を示したのが＜表7＞である。

ここでは、I「自己肯定・他者肯定」型の生徒の割合が減少し、IV「自己否定・他者肯定」型の生徒の割合が増加した。前回より自己否定に移った生徒の割合が増加した。

自己認識の総論としては成果があったが、5領域のうちの学力について課題が残った。また、他者との比較においても課題が残った。このことは、心の成長に伴って客観的・多面的な見方を身につけ、批判的に自分を捉えることができるようになったからではないかと考える。

また、教職員の振り返りの中では、

- ・集団としての取組に、前向きに参加しようとする雰囲気が強まり、生徒同士が声かけや呼びかけをする姿が増えた。
- ・生徒間で他者の活動に対して肯定的な振り返りが多く交わされるようになり、お互いを認め合おうとする経験を積むことができた。
- ・行事ごとの振り返りや他学年からの応援メッセージの掲示を生徒はよく読んでおり、温かい異学年交流の場となった。
- ・教員として生徒をつなぐ視点で生徒の活動を仕組んだり、生徒の発想を大切にしたりする機会が増えた。

などが成果として考えられたが、このように数値に表れない変容をどう捉えて、次の取組につなげていくのか。長期的な展望を持ち、これからの取組を精査しながら継続していくことが大きな課題といえる。

＜表6＞（左が平成27年度、右が平成28年度）

学年	個人内最小点 回答				
	社会	学力	家庭	身体	総合
1年生	25 → 8	55 → 69	4 → 2	34 → 34	3 → 2
2年生	11 → 7	59 → 64	1 → 2	41 → 35	4 → 4
3年生	12 → 5	56 → 58	2 → 4	37 → 47	8 → 4
全体	16 → 7	57 → 63	3 → 3	38 → 39	5 → 3

学年	6点以下 回答				
	社会	学力	家庭	身体	総合
1年生	5 → 7	22 → 44	3 → 3	23 → 25	6 → 9
2年生	3 → 5	35 → 58	2 → 5	26 → 27	7 → 10
3年生	9 → 9	51 → 58	5 → 4	40 → 46	19 → 17
全体	6 → 7	37 → 54	3 → 4	30 → 33	11 → 12

＜表7＞（左が平成27年度、右が平成28年度）

学年	自己他者肯定感 領域別			
	I	II	III	IV
1年生	66 → 55	1 → 1	8 → 2	18 → 36
2年生	65 → 42	1 → 4	4 → 6	22 → 39
3年生	43 → 39	2 → 2	11 → 12	39 → 41
全体	57 → 45	1 → 2	8 → 7	27 → 39